

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 604 号] 2012 年 10 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604  
Tel：03-3290-5731 Fax 専用：03-3290-5732  
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.604

October 2012

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 第 107 回定期演奏会へのお誘い

### 「地上に楽園を」 創立 50 周年のクリスマス使信

大村 恵美子 (主宰者)

地上に楽園を一、これは大昔から人間みんなの常套語でした。が、どうしてなの？ 生まれて間もない幼児のふわふわな身体をいためつける、老化にむかうわが顔には高価な「アンチエイジング」のクリームを塗りたくる、ゴツゴツの島のかげらを獲り合って隣の国に怒号を浴びせる、他人の信奉する宗教を揶揄してまたもや報復のテロ。あげくの果てには、広大な土地を放射能で汚染して、将来永劫にわたって人畜の住めない荒野に変え、海の宝まで毒でみだし、森からは終わりのない刃を含んだ水滴を降らしつづける。

これがみんな損得の分別をもった人間のしわざなのでしょう？ ただ平穩に暮らしていたものが、逃げまどって、邪魔もの扱いされる避難地に何十年も耐え忍ぶことになり、あるいは敵などのいない島の住民を基地で取り囲んで爆音で耳をつぶし、訓練と称する暴力で日々の生活を犯し、生命までも破壊する……。

2012 年の地球上の、これが人間の現状です。正気を失ってこの地球を狂わせてしまったのは、どのようななりゆきからなのでしょう？ もう頭の中の反省からでは遅すぎます。クリスマス・コンサートのひととき、バッハの描きだしたお伽噺の世界に浸って、この世に生まれたときの初々しい生命の息遣いを、自ら一気に思い出せないのでしょうか。

私には見えます。まんまるい目で世の中のおとなを見つめるみどりごの、外を飛び回ろうとしてくり返しストップをかけられた幼児の、社会に貢献したくて学業を終えかけた若者の、おとなの所業にグサリと傷ついた心が、毎夜の夢に見えてきます。

いまは、そここの卑近な現実よりも、背骨をのぼし、上を向いて五感で感じる夢幻の世界のほうが、何層倍もリアルなのにちがいません。こどもがおとなを見限りつくす前に、おとなよ、自分を迷いから目覚めさせよう。メリー・クリスマス！を、心の奥にひびかせて！

\*

創立 50 周年のこの夏は、9 月の末までも長々と暑い日々でしたが、おかげさまで記念懇親会 (7 月 8 日) の賑わいを頂点として、かつてない盛り上がりとなり、

その機会に発行した記念品『バッハ宗教歌曲集名演 20 選』(CD/Book) も、多数のみなさまから賛辞をいただき、月報読者の方々からのご注文もひきつづいていきます。まずは大成功となりました。

全国から懇親会めがけてなつかしい方々が集われ、いらっしやれなかった方々からのお祝辞、心うたれる個人的なおたより、そして記念ファン্ডをはじめとするさまざまな指定ご寄付、後援会への新たなご入会、ほんとうに日々がそんな喜びでみだされました。前述の記念品をお送りすることで、すべてのご返礼を心な

#### 東京バッハ合唱団 創立 50 周年記念公演 [2] 第 107 回定期演奏会

J. S. バッハ [日本語演奏]  
クリスマス・オラトリオ I - III  
カンタータ第 71 番《主はわが君》

日時：11 月 9 日 (金) 19:00 開演 (18:30 開場)  
会場：杉並公会堂大ホール

(JR 中央線/東京メトロ丸ノ内線「荻窪」駅北口から  
青梅街道に沿って徒歩 7 分。03-3220-0401)

[出演]

光野孝子 (S)、佐々木まり子 (A)  
鏡 貴之 (T)、新見準平 (B)、草間美也子 (オケソウ)  
東京カンタータ室内管弦楽団 (オケストラ)  
大村恵美子 (指揮/訳詞)

[チケットお申込み]

前売り 3500 円、当日 4000 円 (全席自由席)

・合唱団事務局：電話 03-3290-5731, Fax 専用 03-3290-5732  
メール bachchortokyo@aol.com

ホームページより <http://bachchor-tokyo.jp/>  
(いずれでも、郵便振替用紙同封でチケットをお送りします)

・チケットぴあ：電話 0570-02-9999 (Pコード 170-543)  
ホームページより <http://pia.jp/t>

[後援会員・団友のみなさま]

●先月 9 月号の月報に同封して、招待状をお届けいたしました。ご確認いただき、ぜひご来聴ください。

#### 月報 CONTENTS

・「カンタータ第 71 番の時代的考察」(森永毅彦) ……p. 2-4

らずも略させていただいていますが、ふと一抹の淋しさもよぎります。なにか、この世の最期ふうになりはしないかと……。

私自身は、ほとんどの方々から「どうぞこれからもずっと続けて」とのありがたい、切実なご心配をいただいているはいますけれど、今年になってからも、仙台、郡山、長野、香川、山口等、無理のないスケジュールで旅も果たしましたし、身体には細心の注意をはらっています。そして、第100回記念定期《マタイ受難曲》(2007年3月)、第5回のヨーロッパ巡演(2009年8月)を過ぎたころからは、将来のことは神さまの計画にゆだねることにしましたので、現在をどう乗り切るかに専念しているところです。

\*

50周年の企画は、昨年12月の《ロ短調ミサ曲》(日本語演奏初演)を成功させ、先の懇親会も華やかなイベントとして終了し、来月にせまった《クリスマス・オラトリオ》前半で、4大合唱作品連続演奏の2つ目をようやく迎えます。まだまだ同チクルスは《マタイ受難曲》、《オラトリオ》後半、《ヨハネ受難曲》と3つの峰がひかえています。

世界的な政治混乱は延々と居すわり、日本の原発事故の收拾、大地震の恐怖も、先の見通しをゆるしませんが、合唱団の経営も、相も変わらず先行きの不透明がつづきます。

適当なホールの確保は抽選次第で、今までより耐震改築を施した中ホールでは、はじめから採算がとれなくなってきました。これらを見越しての「記念ファン500万円目標」の一大決心は、すでに35%達成までのご協力が得られましたが(p.4「報告⑧」参照)、2014年末までに、まだ前途はかかります。私も最大級の努力をつくしますので、お手をさし伸べていただきたく、改めてお願い申し上げます。

4大作品が終わると、私の待ちかねているカンタータの日々もどってきます。大作ばかりを手掛けている大きな合唱団は多いのですが、最近ますます、私はバッハのカンタータの真髄をなつかしく感じ、酷暑の

遠ざかりはじめた現在は、《ヨハネ》後の未発表カンタータ(まだ60曲もある)の訳詞推敲に破竹の勢いで精出す毎日です。

おたがいに、年齢をわすれて、地球再建に死ぬまでの覚悟で励みましょう。多少の心身不如意は神さまにまかせて、孫子の将来にかかわる努力をささげましょう。記念ファンドの達成にも、ぜひみなさまの底力を期待させてください。

\*

来たる11月9日の第107回定期演奏会は、ホール抽選の結果、合唱団としては初めての、ウィークデイ夜(金曜日19:00)の開演となりました。さらに“クリスマス”にはほど遠い陽気ではありますが、このような悪条件にもめげず、どうぞ何人もご家族・ご友人をお誘い合わせのうえご来聴くださり、50周年目の定期演奏会、2004年以来8年ぶりの《クリスマス・オラトリオ》の会場を、みなさまのオーラで満たしてください。

おたがいに、さらなる心身健康をバッハ音楽で養いながら。

## 第107回定期演奏会曲目

### カンタータ第71番《主はわが君》の時代的背景

森永 毅彦 (団員：バス)

バッハの作品の時代的背景を知ること、その作品の鑑賞にとってそもそもどのような意味をもつのだろうか。これは大事な問題であるが、その種の考察はここでは素通りすることにする。以下では、《主はわが君》Gott ist mein König BWV 71 というカンタータが、その政治的社会的な背景についてわれわれの関心をそそる“きっかけ”を僅かながら与えてくれている、その意味でユニークな作品である、ということに着目して、この小さな手掛かりを少しばかりふくらませて、背景への手探りを試みることにする。バッハ論でもなく、正面からの時代論でもなく、中途半端なサーヴェイにすぎない。

よく知られているように、この作品は、1708年2月4日、ミュールハウゼン市参事会員の新旧交代式典という公式行事のために作曲され演奏されたものである。「市参事会」は、中世諸都市が自治権を獲得する過程で形成され一般化した制度で、市長を長としてもつ合議体制をとり、都市によって多少の差異があるが、当時のミュールハウゼンの場合、3組に分かれ、2人の市長と14人の参事会員が1組となって1年交替で市政にあたった。第7曲合唱の歌詞に出てくる〈新たな統治〉„das neue Regiment“は、休任中の前(alt)参事会、前々(oberalt)参事会に対する現任参事会を指すわけであ



■ ジョット Giotto di Bondone (1267頃-1337)「キリスト生誕」フレスコ画、アッシジ聖フランチェスコ聖堂。第107回定期演奏会チラシ挿画の全体図

る。なお、市参事会員職は無俸給の名誉職であったから、相当の財産所有が資格要件だったことになる。

さて〈新たな統治〉との関連で同曲歌詞の中に突然〈ヨーゼフよ〉„Dich, Joseph“という呼びかけが出てくる。これは1708年当時の神聖ローマ帝国皇帝ヨーゼフ1世(在位1705-11)のことであると考えられている。ミュールハウゼンというドイツ中部の一地方都市の政治的行事は、ヨーゼフ皇帝と一体どんな関係があるのだろうか。それは、いかなる地方も帝国の枠組みの中にある以上、その頂点への関係を機会あるごとにあらためて確認する意味があった、といったたぐいの事柄では、むろんない。ヨーゼフへの言及は、ミュールハウゼンが端的に「帝国都市」であったことに由来する。当時のドイツの都市は、法制上は「(自由)帝国都市」と「領邦都市」とのいずれかのカテゴリーに分類される。帝国都市とは、帝国に直属し、皇帝を直接の保護者とする都市である。ここでは、市政の公式の報告は直接に皇帝に対して提出される。市参事会の交代と新しい構成は当然こうした報告義務事項のなかでも基本的な事項に属するわけである。〈ヨーゼフよ〉という呼びかけはこうした制度的関連の詩的表現にほかならない。(余談だが、皇帝をファーストネームで呼ぶのは、いわば“明仁”と呼ぶようなものであるが、言うまでもなく、これはかの地では今も昔もごくありふれた光景である。)こうした制度的関係としては、帝国都市が帝国レベルのさまざまなイベントの開催地となったことが挙げられる。帝国都市フランクフルト・アム・マインにおいては皇帝選挙が行われるのが常であったし、また戴冠式挙行の地としても有名である。三十年戦争のさなかの1627年には選帝侯会議がミュールハウゼンに召集された。この時、マリア教会での開会礼拝においてザクセン選帝侯宮廷楽長シュッツが《主よ、平和を与えたまえ》を演奏したのであった。

「帝国都市」とは法制上のカテゴリーにおいて区別されるのが「領邦都市」である。これは、なんらかの「領邦」に所属し「領邦君主」の支配のもとに置かれる都市である。バッハはその生涯の中でさまざまな都市とのかかわりをもったが、彼が定住した都市(アイゼナッハ、オールドルフ、ワイマール、アルンシュタット、ミュールハウゼン、ケーテン、ライプツィヒ)のうち「帝国都市」に属するのはミュールハウゼンだけで、他はすべて「領邦都市」である。たとえば、ライプツィヒは中世以来交易の中心地として栄え、かつて諸侯の居城も司教の司教座も置かれることなく、市参事会の自治を貫いてきた誇り高い都市であるが、領邦ザクセンに所属し、ドレスデンに宮廷を構えるザクセン選帝侯を領邦君主とする「領邦都市」である。この場合、帝国に「直接」するのは、あくまでも領邦君主であり、ライプツィヒと帝国(および皇帝)との関係は領邦君主によって「媒介」された関係になる。いわゆる「帝国間接」である。そして、この観点から見ると、



■「寓意に囲まれたヨーゼフ1世」。  
Johann Georg Wolfgang  
銅版画(1705頃)  
ウィーン・シェーンブルン宮

ミュールハウゼンのような「帝国都市」は「帝国直接」である一点において、すべての「領邦君主」と対等、ということになる。両者はひとしく「帝国等族」の関係に立つわけである。

領邦都市との関連で、時代背景としての「領邦制」の問題を取り上げたいところであるが、紙幅の制約もあるので、ここでは教会との関連を視野に入れて「領邦教会制」の問題に若干言及しておく。ミュールハウゼンの市参事会交代式典の例にみられるように、市政と礼拝は緊密に一体化しており、また市教会はルター派一色である(敬虔主義の存在は重大であるが、あくまでもルター派内部の改革運動である)。ルターの宗教改革後、アウクスブルク和議(1555)は、領邦諸侯および帝国都市当局がその領民の宗教を定めるという原則を確認した。カトリックと並んで公認されたのはルター派だけだったが、のちに三十年戦争の結果、カルヴァン派がこれに加えられた。こうしてドイツは「領邦教会制」への道をあゆんだ。いわば領邦単位の国教体制であり、領邦の数だけの(つまり約50の帝国都市を含めて300あまりの)「国教会」がドイツにはあったことになる。

ミュールハウゼン市政とルター派教会との結びつきは、アウクスブルクの原則にもとづき、帝国都市の参事会決議によるものだった。ライプツィヒの場合はより複雑である。ザクセン侯国の領邦教会は選帝侯の決定によってルター派となり、領邦都市ライプツィヒにおいても修道院が解散され、修道院付属のトマス教会は市参事会の管轄下に入った。これはアウクスブルク和議以前のことであるが、原則に合致する事態であったといえよう。ところが、ザクセン選帝侯フリードリヒ・アウグスト1世(強王)が、ポーランド王位を獲得するべくカトリックに改宗したことから、状況は一変する。ドレスデンの宮廷教会はカトリックとなっ

たが、領邦教会はルター派にとどまり、ライプツィヒもルター派を守ったからである。この時期にトマス学校のカントルとなったバッハは、就任にあたって、正統ルター派の「和協信条」を遵守する誓約書に署名を求められている。こうした事例は、アウクスブルクの原則からの逸脱ではあるが、1648年のウエストファリア条約は、原則に現実主義的な修正を加えて、この逸脱を例外事態として承認する抜け道を用意していたから、領邦教会制度そのものを揺るがす事態とはならなかった。結果はどうなったか。領邦教会の側はルター派の純粋を守り、たとえば選帝侯はライプツィヒ市内についてカトリック教会を持ちえなかった。しかし、これはルター派以外の宗派には不寛容な体制である。これにたいして、カトリックのみならずカルヴァン派やユダヤ教に対しても“寛容”を求めたのは、宮廷の側であった。こういう構図が成立することになったわけである。類似の事例としては、つとに選帝侯国ブランデンブルク・プロイセンのケースがあった。ここでもルター派の領邦教会が確立していたが、1613年、選帝侯ヨハン・ジギスムントが個人的にカルヴァン派に改宗したのである。結局、選帝侯のカルヴィニズムは“私的”信仰にとどまらざるをえず、公的なルター派の領邦教会とのあいだに、ザクセンの場合と類似の亀裂を生じたのである。そうしてここでも、“寛容”政策をとって、例えばフランスの亡命カルヴィニスト（ユグノー）の積極的誘致を図るなど、“近代化”路線を推進したのは、プロイセン国王の側であった。このような領邦君主の“上からの”寛容政策をどう評価するか、また、バッハの音楽的活動をこうした潮流といかに関連づけて解するか、これはもはや小論の守備範囲をこえる。

いずれにせよ、バッハの死後、フランス革命とナポレオンの一撃でドイツの帝国はあえなく瓦解する。帝国と関連を有する「帝国都市」や「選帝侯」や「帝国等族」といったカテゴリーもすべて消滅する。ミュールハウゼンは一地方都市としてプロイセン領に、ついでザクセン州に組み入れられる。そうして、いまや、帝国の一切の拘束から解放されて、プロイセン、オーストリアの二大“雄藩”が、ドイツ統一に向けて鎬を削る時代が始まるのである。

CD & Book (創立 50 周年記念企画)

### バッハ宗教歌曲集【日本語演奏】名演 20 選

- ・ 11 名のソリストがうたう夢の饗宴
- ・ CD 1 枚 + 冊子 (通奏低音つき楽譜、日本語/ドイツ語歌詞併載) A4 判・24 ページ

■ 当月報紙上でご覧いただいた方々 (Web 上のホームページ閲覧者もふくめ) には、1 セット (CD + 冊子) 1000 円の頒布価格 (送料とも) でお分けいたします。事務局までお申込みください。郵便振替用紙を添えてお送りいたします。なお発送までに 2 週間ほどお待ちいただく場合もございます。あらかじめ、ご了承願います。

## お・た・よ・り

戸田 敏子さま (団友、声楽家)

六月の私の会のはきは、思いがけず会場の芸大まで来てくださって、本当にほんとうに嬉しかったです。ありがとう存じました。昔と一緒にたくさんのカンタータを歌ったことは、只々なつかしい思い出です。あれから随分と日がたってしまいました。そしてこんな年齢 (とし) になるのは……！です。

貴方の努力、人柄そして音楽、とずっと続けてこられた事は素晴らしいことと、いつも感心しています。この夏はとても暑かったですね。そしておそろしい事もたくさんあって悲しいです。でもどうぞお元気でね。あたたかい合唱団を続けて下さるよう。

西村 清志さま (後援会員・小樽市在住)

「バッハ・宗教歌曲集」どうもありがとうございます。早速、聴いてみました。“日本語を通してバッハの世界へ”という情熱がヒシヒシと伝わってきました。そしてこの歌曲集は“永遠の生命の国”への讃歌のように思えました。

## —お知らせ—

●朗報!! テノール独唱者の鏡貴之さんが、第 4 回東京国際声楽コンクールで、みごと 1 位優勝を果たされました。おめでとうございます。《オラトリオ》のエヴァンゲリスト、そして特に第 2 部のアリア「牧人らよ 行けやゆけ」、楽しみです。

●《マタイ受難曲》の本格練習の再開は、クリスマス定演終了の翌日 (11 月 10 日、土曜日) からです。合唱参加を歓迎します。あわせて、リビエーノ部分を歌う少年少女の臨時団員も募集しています。詳細はおたずねください。

## 東京バッハ合唱団<創立 50 周年記念ファンド>

報告⑧: 2012 年 9 月 30 日現在

募金達成額: 1,770,000 円 (応募者 113 名)

### ■支出累計内訳:

(2011 年 1 月 1 日～2012 年 9 月 30 日現在)

合唱団会計補助 (赤字解消)	500,000 円
演奏会会計補助 (赤字解消)	200,000 円
後援会会計補助 (赤字補填中)	900,000 円
50 周年記念懇親会 (7/8) 補助	100,000 円
募金経費 (PR パンフ印刷 2 回)	60,000 円
支出合計	1,760,000 円

■残金 (基金へ積み立て) …………… 10,000 円

### ■ご応募 113 名 (お名前非公表) の内訳:

一般 45 名、後援会員 45 名、団友 18 名、  
団員 5 名 (後援会員を兼任している団員は、前者に分類)

・当ファンドは、「合唱団運営の安定を図り、創立記念事業を助成すること」を目的に、目標額を 500 万円、101 万円として、2011 年 1 月に開設。記念事業の終了する 2014 年末までを募金期間としています。趣旨と詳細を記したパンフレット (2012 年版) がございます。ご請求ください。